

## 秋（10～11月）の平尾台の代表的な花々

2018年10月5日作成

科		花期	花卉・花色	葉・茎	特徴
リンドウ科	センブリ (千振)	8~11月	白色で5深裂で裂片で紫の筋が入る	葉は対生・1.5cmの線形 <b>茎は4稜形で淡紫色を帯びる。</b>	全草に苦みがある。健胃薬として知られる 日が当たっている時だけ花が咲く。
	ムラサキセンブリ (紫千振)	8~11月	<b>淡紫色で紫色の筋が入る。</b> 花冠裂片は幅広く5深裂	葉は密に対生。線状披針形 茎は太く暗紫色で上部で枝分れ	花は上方から咲き始め苦みあるが薬にしない <b>密腺の回り毛が多い。(絶滅危惧種II A)</b>
	イヌセンブリ (犬千振)	8~11月	白色で淡紫色の筋が入る	葉はセンブリより幅広い	苦み少なく薬にはしない。湿地に生える。 <b>密腺は毛が長い。(絶滅危惧種I B)</b>
	リンドウ (竜胆)	9~11月	紫色で5裂し裂片の間に副片あり <b>内側に茶褐色の斑点</b>	葉は対生、卵状披針形で先が尖る。	根茎を乾燥させ薬用にする。 <b>根生葉はない。(絶滅危惧種II A)</b>
	フデリンドウ (筆竜胆)	4~5月	青紫色(長さは2~2.5cm) <b>花冠はハルリンドウより小さい</b>	葉は卵円形で裏面は、しばしば赤紫色を帯びる。	<b>根生葉は小さく、ロゼット状にならない。</b> (蕾の形が筆の穂先に似ていることによる)
	ハルリンドウ (春竜胆)	3~5月	青紫色(長さは2~3cm) 花冠は5裂の漏斗状鐘形	葉は小さく卵状披針形 茎は数個立ちする。	<b>根生葉は2cmほどの卵形でロゼット状で大きい。</b> 日当たりのよい湿り気を好む。
ユキノシタ科	ウメバチソウ (梅鉢草)	10~11月	白色茎頂に1個上向きに咲く <b>花卉は5個で平行脈が目立つ</b>	葉は広卵形で基部は <b>ハート形</b> <b>茎葉は無柄で茎を抱く。</b>	日当たりの良い丈の低い草地・湿地に生える。 梅鉢紋に似ていることによる。
キク科	ホソバナヤマハハコ (細葉山母子)	9~10月	球状の白い花が上部に群がり付く。 <b>花卉に見えるのは総苞片</b>	葉は細く狭披針形(幅2~6mm) <b>茎はほとんど枝分かれしない。</b>	高い山の頂上付近や高地草原に生える。

\*参考文献：九州の花図鑑・山溪ハンディ図鑑(野に咲く花、山に咲く花)・秋吉台で出会った花